第7次総合計画前期基本計画における R5 行政評価結果の外部評価（政策アドバイザーの意見）（一部抜粋）

頁	1 政策評価結果・取組方針評価結果に対する意見	意見に対する取組状況や評価結果への反映など
P2	<p>○政策評価</p> <p>基本戦略2「元気で健やかな暮らしを支える」については、C評価からB評価に上方修正してもよい。健康づくりに関する取組方針4については、高齢化等により死亡率は上昇したが、受診率や利用回数はほぼ横ばいである。また、医療体制に関する取組方針5については、医師数・看護師数等が大幅に減少したわけではない。いずれもC評価より当初のB評価が妥当だろう。よって、基本戦略2についてはB評価とするのが妥当である。（日本大学 児玉教授）</p>	<p>基本戦略2における政策評価のC評価は、健康寿命が目標に届かなかったことや出生数の減少、市民アンケートによる健康的な市民の割合の低下に各取組方針結果を加味して評価したものである。</p> <p>児玉先生からは、取組方針4と5が過少評価であり、評価を上げることでC評価は1つとなり、政策評価をB評価へ上方修正してよいと判断いただいている。</p>
P7 P13	<p>○政策評価</p> <p>○取組方針評価</p> <p>経営戦略2「世界遺産のまちをつくる」については、A評価となっているが、構成する取組方針がいずれもB評価であり、齟齬が見られる。遺産観光に関する取組方針28については、ガイド件数や来館者数、動画再生回数が目標を大幅に上回ることから、B評価ではなくA評価が妥当である。そうすれば、経営戦略2をA評価とすることと矛盾しない。（日本大学 児玉教授）</p>	<p>経営戦略2における政策評価のA評価は、市民アンケートによる文化遺産を誇る市民の割合が目標を上回ったことに各取組方針結果を加味して評価したものである。</p> <p>児玉先生からは、取組方針28が過少評価であり、評価をA評価に上げることで、政策評価をA評価とする根拠となるとの判断をいただいている。</p>